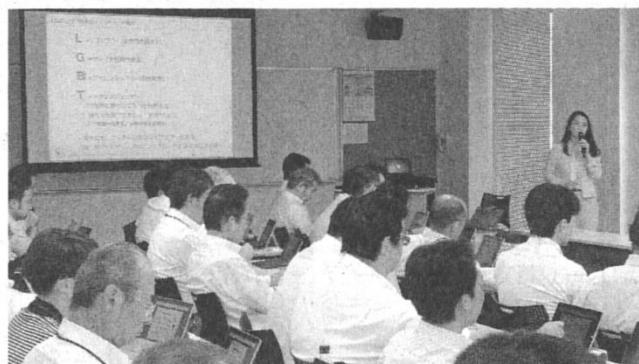


首都圏を中心に29病院を運営する戸田中央医科グループ(ＴＭＧ、埼玉県戸田市)が性的少数者(LGBT)への理解を促す職員向けの研修を始めた。約1万5000人が働くグループの各職場で正しい知識を浸透させ、多様な人材が働きやすい職場づくりにつなげる目的だ。医療現場での理解を深め、外来診療などで患者が抱える悩みの相談対応にも生かす。

「LGBTは13人に1人の割合でいると言われています」。

ＴＭＧが7月に戸田市で初めて開いた「LGBT研修」で、参加した各病院の事務長ら幹部約70人が講師の説明に真剣に耳を傾けた。

戸田中央医科グループ



LGBT理解へ職員研修

グループの各病院の事務長らがLGBTへの理解を深めた(7月11日、埼玉県戸田市)

グループの各病院の事務長らがLGBTへの理解を深め、受け入れ環境を整えることで、多様な医療人材が予想される。グループ全体でLGBTへの理解を深め、受け入れ環境を整えることで、多様な医療人材の確保につなげる。

将来的に就労人口の大大幅減少が見込まれ、医療人材の確保も難しさを増すことが予想される。グループ全体でLGBTへの理解を深め、受け入れ環境を整えることで、多様な医療人材の確保につなげる。

最初に受けた。自身の経験を交えながら約1時間、LGBTの基礎知識や対応の注意点などを解説した。

ＴＭＧは多様な人材の活用を進める目的で4月に「ダイバーシティ推進室」を設置した。LGBT研修が必要な課題を共有。求職

幹部向けとは別に、各病院の人事担当者を対象とした実務研修も行った。職場の差別意識の解消やトイレ、更衣室などの施設整備など、働き手としてLGBTを受け入れるために対応

された。ただし、医療現場ではこうした意識が十分には浸透していないのが実情だ。

ＴＭＧでは今後、内部の対応だけでなく、診察や健診時などLGBTの外来患者への対応についても研修などを通じて啓発していく方針だ。